

## 令和元年度「全国学力・学習状況調査」における 多賀小学校の結果の分析について（第2回目）

全国学力・学習状況調査は、全国の6年生の学力や学習状況の結果を分析し、継続的に学校における児童への指導充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として行われています。

11月号では、学習状況調査（質問紙調査）から分かってきた、子どもたちの現状と課題についてお知らせします。

### （1）家庭学習について

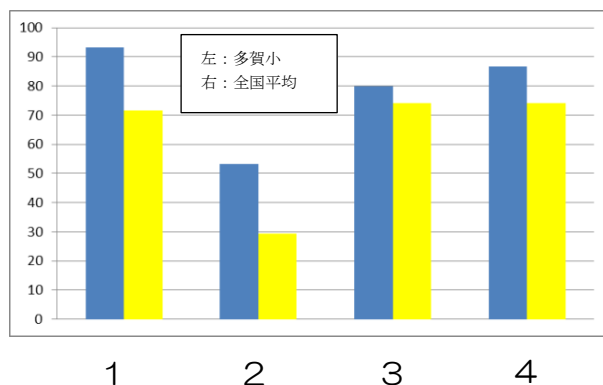
自分で計画を立てて学習をしている児童が9割以上、平日に2時間以上家庭学習をしている児童が5割以上と、家庭での学習習慣が身に付いてきています。

将来の夢を実現させるためには、計画的に学習等に取り組む力が必要です。2学期からは毎週末を「自主学習DAY」とし、子どもたちが計画的かつ積極的に自主学習に取り組めるように指導しています。学期末には、「校長賞」「教頭賞」を選定し、表彰することで励みとなるようにしています。

### （2）話し合い活動について

ほとんどの児童が、「話し合いを通して自分の考えを深め、周りに広げたり、お互いの意見のよさを生かして問題を解決したりすることができている」と答えています。

多賀小学校では、「何でも話せる学級づくり」を目指し、学級会を活かして、学級の課題について話し合い、みんなで協力し解決できるようにしています。また、学校の行事や児童会の活動が活性化するよう、積極的に意見を出し、自分たちで考えて行動できるようにしています。



- 1：家庭で計画的に勉強しているか
- 2：2時間以上家庭学習をしているか
- 3：話し合いを通じて自分の考えを深めたり広げたりしているか
- 4：お互いの意見のよさを生かして問題を解決しているか